

党3中全会（3）

田中 修

はじめに

本稿では、「改革全面深化の若干重大問題に関する党中央決定」の誕生記を新華網北京電 2013 年 11 月 18 日に基づき紹介する。

1. 時系列

2012 年 12 月 習近平総書記、広東省深圳視察。8 日午前、蓮花山講演で鄧小平の銅像に献花。「我々は、断固として改革開放を推進し、改革開放・現代化建設が新たな進展を得て、新たなブレイクスルーを実現し、新たな段階に上るよう奮闘推進する」旨表明。

12 月 31 日 中共中央政治局は改革開放を断固として推進することにつき、第 2 回集団学習会を開催。この際、習近平総書記は、「改革開放は、長期にわたる非常に困難な繁雑で荷が重い事業であり、代々引き継いで実施しなければならない。社会主義市場経済という改革の方向を堅持し、対外開放という基本国策を堅持することにより、時機を失せず重要分野の改革を深化させ、18 回党大会が示した改革開放の方向に向けて勇気を奮って前進しなければならない」と強調。

2013 年 4 月 新たな国家機関の交代選挙が終了。中共中央政治局は、歴史的経験と現実の需要という高みから、意義が重大で深遠な歴史的的政策決定一党 18 期 3 中全会では、改革の全面深化を検討・決定する一を行った。

中共中央政治局は、同時に党 18 期 3 中全会文件起草グループを批准・設立し、習近平総書記自らが組長を担任することとなった。これは、新世紀に入り、党の最高指導者が初めて全会文件の起草グループの責任者となったものであり、党中央が改革全面深化を高度に重視していることを示すものである¹。

4 月 20 日 党中央は、各省・自治区・直轄市、中央・国家機関、解放軍および各人民団体に通知を出し、改革全面深化への意見を徴取。1 ヶ月足らずの間に、118 件の意見・建議が全国各地から北京に集まった。

4 月 24 日 文件起草グループ第 1 回全体会議。この会議で習近平総書記は、「新時期の改革の歴史的特徴・現実条件・具体的任務、改革に対する人民大衆の新たな期待・要求を十分認識し、今後一時期の改革全面深化について戦略的手配を行わなければならない

¹ ゴチックは筆者。

い」と要求した。

文件起草グループは、習近平総書記の「学習を強化し、水準を高め、深く調査研究し、深く思考し、民主を発揚し、十分討論し、精力を集中し、全力で赴く」という要求に基づいて、作業を行った。

7月22日 習近平総書記は湖北省武漢を視察し、改革開放の座談会を開催。

この際習総書記は農村総合財産権取引所を視察し、土地の流通取引状況について説明を受け、「これは1つの積極的模索である。農村土地集団所有の性質を堅持する前提の下、農地・食糧の基本的安全を保障しつつ、規範的に流通させて農民の所得を増やすにはどうすればいいか？よく研究する必要がある」と強調。

これを受け、文件起草グループは特別調査研究小グループを設け、関連単位に委託して農村に入り、農民を訪問して、農村土地問題の特別調査研究を展開した。

7月25日 中南海勤政殿で党中央政治局常務委員会会議が開催され、「決定」審議稿が各常務委員に配布された。

9月4日 「決定」意見徴取稿が、中央党・政府・軍機関及び地方の100余りの単位に下達され、広範に各方面の意見が徴取された。

党・国家の指導的ポストを引退した老同志も、「決定」意見徴取稿に対して意見・建議を提出した。

9月17日 習近平総書記は座談会を主催し、各民主党派、全国工商聯責任者及び無党派人士の「決定」稿に対する建議・意見を聴取した。

9月初めに「決定」意見徴取稿を下達して以降、1ヵ月に満たない間に文件起草グループは計2564件の意見・建議を受け取った。フィードバックされた意見の吸収率は40%を超え、加筆・修正・文字の簡素化等修正は539ヵ所に及んだ。これには、114の単位、8の民主党派中央、全国工商聯及び無党派人士の1120件余りの意見・建議がカバーされている。

10月29日 党中央政治局会議は、「決定」稿について党内外から意見を徴取した情況報告を受け、各方面の意見及び党中央政治局常務委員会会議精神に基づき、文件起草グループが「決定」稿に修正を加えることを了承し、修正後の文件稿を党18期3中全会の審議にかけることを決定した。

11月9日 党18期3中全会が北京で挙行された。習近平総書記は、「決定」討論稿につ

いて全会に説明を行った。

全会に出席した 204 名の中央委員、169 名の中央候補委員は、「決定」討論稿について十分討論を行った。会場内では審議は真剣・熱烈であったが、会場の外では意見の整理が同時進行していた。

文件起草グループは全体会議を開催し、全会各グループから提出された意見・建議が真剣に検討され、「決定」稿が修正された。

11 月 11 日晚 習近平総書記は党中央政治局常務委員会会議を主催し、全会各グループの意見と文件起草グループの修正建議を聴取し、修正後の「決定」稿を審議した。

11 月 12 日午前 全会グループ別討論の意見・建議に基づき、「決定」稿は更に修正された。

11 月 12 日午後 3 時 「決定（草案）」が中央委員・中央候補委員に席上配布され、全会一致で可決された。

2. 指導部の役割等

(1) 習近平総書記

○全会開始まで 6 ヶ月余りの時間に、習近平総書記は 3 回党中央政治局会議常務委員会会議を主催し、2 回党中央政治局会議を主催し、4 月末から 7 月初にかけ何度も文件起草グループ全体会議を主催して、「決定」稿を討論・審議した。

○広東、河北、甘肅、海南、天津、四川、湖北、遼寧、湖南……18 回党大会以降、習近平総書記の視察の足跡は、東西南北、コミュニティ、郷村、企業、学校にまで及び、改革全面深化には、6 つの重大問題の調査研究が必要だと提起した。

- ①**全国統一の市場システムの形成**を更に進め、公平な競争の発展環境を形成する。
- ②**経済の発展活力**を更に増強し、経済の持続的で健全な発展実現のために尽きることのない動力を提供する。
- ③**マクロ・コントロールの水準**を更に高め、政府の効率・機能を高める。
- ④**社会の発展活力**を更に増強し、社会の調和・安定を促進する。
- ⑤**社会の公正・正義**を更に実現し、制度の手配を通じて人民大衆の各方面の利益を更に好く保障する。
- ⑥**党の指導水準と執政能力**を更に高め、全局の総覧・各方面の協調における党の役割を十分発揮させる。

○4 月末から 7 月初に何度も開催された文件起草グループ全体会議において、習近平総書記

は重要な指導的意見を発表した。

①「決定」稿は、人民の検証を経なければならない。

全党・全社会が関心を払う重点を把握し、各方面の問題・関心に回答し、改革の総体設計・的確な措置を検討・提起し、改革の戦略目標・戦略重点・優先順序・主たる攻め口・政策メカニズム・推進方式を明確にしなければならない。

②「決定」は実践の検証を経なければならない。

重大改革措置はささいな所から全局にまで影響が及ぶものであり、一旦偏差が出現するとこれを正すことは難しく、繰り返し論証することにより、これを実施すれば長期にわたり有効なものとしなければならず、(焼餅を随意にひっくり返すような)頻繁な変更をしてはならない。慎重さ(石を探りながら河を渡る)を堅持し、胆力は大きく、歩みは穏やかでなければならない。改革の重大措置は各方面の多くの意見を聴くこととなるが、最後は政治決断である。

③「決定」は歴史の検証を経なければならない。

自覚的に大局から出発して問題を考えなければならない。改革措置は慎重でなければならないが、敢えて何もやらないということがあってはならず、リスクのない改革はない。改革しなければ、発展の難度は更に大きくなる。

○改革の文件は、改革という性質を堅持しなければならない。改革の文件は、改革の措置を際立たせなければならない。習近平総書記の「完全無欠のようであってはならず、そつはないが表面的であってはならない」という要求に基づき、文件起草グループは「3つの書き込まない」を堅持した。すなわち、①一般的な措置は書き込まず、②重複した措置は書き込まず、③純粋に発展に属する措置は書き込まなかった。

(2) 文件起草グループ

文件起草グループは直接調査研究し、部門・機関に委託して調査研究し、専門家の意見を聴取し、政治協商会議を傍聴した。

文件起草グループの構成員は60余名である。半年余りの間に、文件起草グループでは80余りのグループ別会議が開催された。

(12月4日記)